# 新堂町（しんどうちょう）

## 中世に二つあった新堂

現在の橿原市域には、同じ「新堂」の地名が二つ中世からありました。かつて高市郡に属した現在の「新堂町」と、いま一つが磯城郡に属した「西新堂町」です。

この高市郡に属した「新堂」が「宇那手（うなて）新堂」として、室町時代・至徳三（一三八六）年の興福寺関係文書に初登場しています。

その後も「大壷（おおつぼ）新堂」や「和州十市郡新堂里」などと中世を通じて登場したあと、江戸時代になると「新堂村」と呼ばれ三〇〇年の長い幕藩時代を経て明治時代を迎えます。

明治一五年ごろの新堂村は、戸数が五八戸で人口が三一一人（町村誌集）の、米・麦・ぶどう・菜種などを作る（農産物取調表）標準的な農村でした。そして、同二二年の町村合併で金橋村が誕生し当地が同村の大字となります。この金橋村が昭和三一年に橿原市に編入され、これに伴って大字が「橿原市新堂町」となりました。

平成元年に町の中央北部で、県ハイテク工場団地がオープンしています。同団地では、高い技術力を誇る県内の中堅企業一〇社が健全操業を続けています。同町民をはじめ市民多数の熱い視線がハイテク団地の将来発展に集まっているようです。